

-概況-

12月の前年同月比DI値は、「販売価格」「資金繰り」「雇用人員」「景況」が低下した。主要3指標は「売上高」は9.6ポイントの上昇、「収益状況」は変わらず、「業界の景況」は2.0ポイント低下した。

製造業では、印刷業と窯業・土石製品が改善している。「木材・木製品」では引き続き住宅着工数減少の影響を受けている。

非製造業では、「卸売業」「サービス業」「運輸業」で先月より改善している。非製造業全体的では、「売上」「価格」「収益」で改善した。

多くの業種で売上高、販売価格が改善してきているが、依然として原材料並びに燃料費の高止まりが続いており、収益が厳しい状況である。季節的な要因と個人消費の回復も追い風となり、関連する業種では改善した月となった。採用においては、募集をかけても応募が得られない状況との報告もあるなど、非常に深刻な状況が続いており、人手不足が経営に重大な影響を及ぼす懸念が高まっている。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	75.0	-25.0	25.0	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	25.0	25.0
繊維・同製品	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	-25.0	25.0
木材・木製品	-50.0	-75.0	25.0	0.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	-75.0
印刷	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
窯業・土石	50.0	-25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	-25.0	0.0	0.0
鉄鋼・金属	-25.0	-25.0	-25.0	0.0	-50.0	-25.0	-25.0	0.0	-25.0
一般機器	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0
製造業	20.0	-20.0	20.0	-4.0	-12.0	-4.0	-8.0	0.0	-4.0
卸売業	0.0	0.0	33.3	0.0	-33.3	0.0		-33.3	33.3
小売業	0.0	0.0	-14.3	0.0	-42.9	-28.6		0.0	-28.6
サービス業	16.7		66.7	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
建設業	40.0		40.0	0.0	-40.0	0.0		-20.0	-20.0
運輸業	25.0		50.0	0.0	25.0	0.0		0.0	0.0
その他	0.0		0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	14.8	0.0	29.6	0.0	-18.5	-7.4		-7.4	-7.4
全体	17.3	-14.3	25.0	-1.9	-15.4	-5.8	-8.0	-3.8	-5.8

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年 12月	5年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	前月比
売上高	-5.8	-7.7	-7.7	7.7	15.4	5.8	15.4	3.8	-1.9	-1.9	1.9	7.7	17.3	9.6
在庫数量	-5.7	2.9	2.9	-2.9	5.7	0.0	-8.6	-11.4	-11.4	2.9	-17.1	-17.1	-14.3	2.8
販売価格	30.8	23.1	25.0	36.5	30.8	36.5	34.6	30.8	19.2	23.1	26.9	26.9	25.0	-1.9
取引条件	-7.7	-11.5	-9.6	-11.5	-9.6	-7.7	-13.5	-15.4	-11.5	-11.5	-3.8	-3.8	-1.9	1.9
収益状況	-28.8	-48.1	-32.7	-28.8	-7.7	-11.5	-23.1	-17.3	-28.8	-25.0	-17.3	-15.4	-15.4	0.0
資金繰り	-21.2	-30.8	-17.3	-19.2	-9.6	-11.5	-15.4	-11.5	-13.5	-11.5	-3.8	-1.9	-5.8	-3.9
設備操業度	0.0	-4.0	-8.0	-8.0	-0.0	-0.0	8.0	12.0	-20.0	0.0	12.0	-16.0	-8.0	8.0
雇用人員	-3.8	-1.9	-3.8	-7.7	-3.8	-7.7	-5.8	-7.7	-9.6	-5.8	0.0	0.0	-3.8	-3.8
業界の景況	-23.1	-17.3	-19.2	-15.4	-5.8	-11.5	-5.8	-3.8	-19.2	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	-2.0

特記事項

情報連絡員報告（令和5年12月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	和洋菓子製造業	原材料の高騰は以前からだが、小豆や餅米等の品質又は量の問題が年末に起きており、気候変動が今後問題になってくる。
	めん類製造業	<p>コロナが明けての年末で、人流が活発化し、外食関係にも良い影響が出ているが、各社により大きな格差が生まれている。年末恒例の年越しそばについても、前年並みの受注生産ができた模様。地域により販売価格にも差が生じているが、概して前年よりも原材料価格の高騰の影響もあり、高額商品の動きが良かったようだ。又、地域内において、外食のラーメン店の年配の店主の店が閉店し、若い店主のお店の開業もあり経営者の新陳代謝が進んだ。原材料資材の価格は、高値で落ち着きつつあるが、最低賃金、人件費の上昇で経営には厳しさと圧迫が続いている。問題点は、人手不足で、採用面で苦慮している。会社の立地により、若い人材の集まる地域と募集をかけても全然反応のない地域がはっきりしている。</p> <p>又、宇都宮市東側にLRTが開通し、LRT優先の交通システムにより、交通渋滞とストレスが増えたと感じる。駅東口の飲み屋街にとっては、2次会3次会の需要が減ったり、代行運転が捕まえにくくなったとの情報もある。</p>
繊維工業	縫製業	前年より受注数量がまとまったため、売上高は増加した。業界の状況は良くなく、次年度の景況も期待できない。
	絹・レース・繊維粗製品製造業	<p>新年早々大きな災害、事故が起きてしまい、明るいスタートとはなりませんでしたが、目の前の事から逃げることなく、自らできる事を一つ一つこなしてまいりたいと思います。さて、昨年は当組合でも世代交代が順調に進み、組合理事の構成メンバーの平均年齢はコロナ前に比べ大幅に下がりました。世の中の流れはとても厳しい状況ではありますが、お互い切磋琢磨しつつ、知恵を出し合いながら、有益な組合活動を行いたいと思います。</p>
木材・木製品	一般製材業	新規木造住宅着工数の減少が続き不振が続いており、昨年と比べて悪化している。引き続き先が見えない状態である。
	家具・建具製造業	繁忙期を前にした季節的要因が売上高を減少とする企業の割合が増加した。資金繰り悪化する企業の割合も増加しており、今後の不安材料となりつつある。零細木材加工業者の破綻があった。
印刷	印刷業	年末年始のチラシは低調。年賀状を廃止する会社、個人が増え12月としてのプラスの要因が減って前年並みが精一杯の状況。原材料値上がり分の価格転嫁は一定程度浸透している。
窯業・土石製品	石灰製造業	<p>鉄鋼向けは、昨年に比べ増加した。 建材関係は、昨年に比べ若干減少した。 肥料関係は、昨年に比べ若干減少した。 全体では、昨年に比べ若干減少した。</p>
	陶磁器・同関連製品製造業	陶器市も終わり一段落している業界だが、一般客の売り上げが伸びている。正月の来客も増えているが、1月2月は毎年売上が大きく落ち込むので心配である。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	<p>鋼材関連の荷動きが悪く低迷した年末年始となった。賞与の時期だが、製品の価格転嫁が進まない中で厳しい状況。自動車部品は動いているが年末の勢いとはならなかった。自動車向け金型関連は年始からの新規話題も乏しい状況。（他地域においては倒産企業もあり他人事には思えない） 各団体が忘年会を開催しているがタクシー・代行が来ない。市内飲食店では移動手段がなく長時間のお客様が多いため回転が悪い。</p>
一般機器	一般機械器具製造業	令和5年12月の報告は、今月も前年同月と比較し大多数が前年同様との組合員企業から報告を受けている。相変わらず仕入れ資材や諸経費等の上昇懸念もあり、先行きの不安要因があるもののそれなりの対応を進めているようである。これに対し販売価格の転嫁は、なかなか難しいようで企業間でばらつきがありまちまちといった状況。収益状況についても全般的に不変といった企業が多いとの結果報告でした。技術者については将来深刻な状況になるのではと懸念している。

	一般機械器具製造業	企業間において差はあるが概ね前年同様若しくは一部上向きな動きも出ている。物流の2024年問題で輸送費アップの話もあり、今後の懸念材料である。
卸売業	各種商品卸売業	当団地組合では、前月同様販売価格は上昇とする企業が多く、業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。他は不変とする企業が多かった。
	各種商品卸売業	業種・取扱商品によって流通量の増減に差がある。燃料価格は、未だ高値が続いており、物価高騰と相まって、収益を圧迫している。従業員の人員確保が難しい。(募集をかけても集まりにくい。)
小売業	その他の小売業	冬季のためガス灯油の需要が高まり、組合員全体として売上高は増加傾向にあるが、仕入価格の高止まりランニングコストの上昇等により収益状況は悪化傾向にある。この状況が続けば、業界の景況も悪化していく。
	各種商品小売業	12月に入ってもなかなか気温が下がらず相変わらず冬物の動きが悪かった。後半、冬らしい気候になりはしたが時はすでに遅く前半の不調を取り戻すまでには至らなかった。貴金属を扱うテナントが閉店セールを実施し、全体の売上を押し上げた結果、売上高は前年をクリアできたが客足数は前年に届かなかった。
サービス業	給食センター	エネルギー価格は落ち着いてきたと感じます。給食センターにおける業況は、価格転嫁しにくく悪化しております。
	旅館・ホテル	12月の業況(宿泊者数)は前年比でほぼ横ばいだった。尚、忘年会のお客様においては、多少戻りつつあるもののコロナ禍以降、宿によっては人数制限や受け入れをしていないのが実情だ。その一方で、外国人客が少しずつ戻りつつある。また、年末年始は、天候に恵まれ大きな落ち込みはなかった。
	旅館・ホテル	12月も宿泊は高稼働で推移しましたがコロナ前とは月ごとの傾向が違ってきているように感じる。宴会 新型コロナウイルス宿泊療養施設後の原状復帰作業中により100%ダウン。飲食店はコロナ前と売り上げトレンドの傾向が変わってきているように感じる。年末の忘年会需要が週末は戻ってきた感じがある。
建設業	職別工事業	売上高においては対前年同月比約70%程増加傾向にあったものの、材料費の値上げ等により収益面においては前年同月比と同等な結果となった。受注においては来年1月においても堅調に推移すると思われる。
運輸業	貨物自動車運送業	年末にかけて前年比上向いていたが小物等の配送は、物価高の影響もあり個人消費減の影響により思ったより低調であった。自動車関連輸送では、メーカーの認証試験の不正に伴い年末からの出荷に影響が出た。1月以降についても見通しが立っていない。依然として、人手不足感は引き続き高い水準にある。
	一般乗用旅客自動車運送業	12月4日に10.8%の事実上の値上げをいたしました。小規模値上げのだった為か、それ程市場には影響が無かった。宇都宮市ではコロナ5類移行後、初めての年末を迎え、忘年会などでタクシーの需要が多かった。
その他の非製造業	大谷石採石業	11月、12月とイベントがあり盛況であったが根本的な問題として駐車場が少なく、周辺住民に迷惑をかけた点が今後の課題となった。